

基本情報		1号機	2号機	3号機	4号機	備考
炉型		BWR-3	BWR-4	BWR-4	BWR-4	
電気出力／熱出力(MW)		460/1380	784/2381	784/2381	784/2381	
被災状況時の	運転状態	運転中⇒自動停止	運転中⇒自動停止	運転中⇒自動停止	定検中	
	原子炉装荷燃料体数	400	548	548	0	
	使用済燃料プール内使用済燃料貯蔵数	292	587	514	1331	
	外部電源	地震により喪失				
	非常用電源	外部電源喪失とともに非常用ディーゼル発電機が自動起動したが、津波により停止し、全交流電源が喪失				
原子炉冷却	現状	炉心燃料健全性	炉心損傷(溶融*1)	炉心損傷(溶融*1)	炉心損傷(溶融*1)	燃料なし
		原子炉圧力容器構造健全性	限定的な損傷・漏えい	不明	不明	健全
		原子炉格納容器構造健全性	損傷・漏洩の疑いあり	損傷・漏洩の疑いあり	損傷・漏洩の疑いあり	健全
		炉心冷却機能	代替冷却機能により冷却中			必要とせず
	対策	STEP2(7月～2012年1月)目標	冷温停止状態:①圧力容器底部温度が概ね100℃以下 ②格納容器からの放射性物質の放出を管理し、追加的放出による公衆被ばく線量を大幅に抑制			—
		循環注水冷却	継続中[6/27～一部、7/2～全量]			—
		窒素充填(水素爆発防止)	実施中[4/6～]	実施中[6/28～]	実施中[7/14～]	—
		課題	冷温停止状態に持ち込むため、滞留水処理施設の安定的な移動が重要。			—
使用済燃料冷却	現状	使用済燃料の健全性	不明	大部分が健全と推定*2	不明	大部分が健全と推定*2
		使用済燃料プールの冷却機能	注水機能のみ回復	機能回復	機能回復	注水機能のみ回復
	対策	STEP2(7月～2012年1月)目標	より安定的な冷却:循環冷却システムの確立(2、3号機済み)			
		通常ラインによる注水の復旧	燃料プール冷却浄化系を用いた淡水注入実施中	燃料プール冷却浄化系を用いた淡水注入から循環運転へ切り替え	燃料プール冷却浄化系を用いた淡水注入から循環運転へ切り替え	代替注水ラインにて淡水注水実施中[6/17～]
発電所の現状と対策、対応状況	滞留水	現状	放射性汚染水の滞留、増加			各号機の原子炉、タービン、廃棄物処理建屋、トレンチ内に、高濃度の放射性物質を含む汚染水が大量に滞留（95,480m3[7/19]
			STEP2(7月～2012年1月)目標			滞留水全体量の減少
		対策	処理施設の設置			・高レベル汚染水放射能処理装置6月17日処理開始 試運転を経て、本格運転実施中。(定格:1,200m3/日)。 ・放射能処理した水を淡水化処理(6月中旬以降:480m3/日。その後、順次増量予定。)し、原子炉注水に再利用開始[6/27～]。
			建屋内滞留水の排除、処理継続、強化			・2号機および3号機の高レベル放射性汚染水を集中廃棄物処理建屋に移送実施中(2号:4/19～、3号:5/17～) ・セシウム吸着施設増強工事中。淡水化施設増強工事中。
	課題	対策	廃スラッジ等の保管／管理			高レベル汚染水の処理に伴い発生する高放射能の廃スラッジは適切に保管中。貯蔵施設の準備工事中
			保管場所の確保			・集中廃棄物処理建屋を高レベル汚染水移送先として利用することで、保管容量14800m3(10,000m3+4,800m3)確保。 ・高レベル水受タンク用設置工事中(8月末2,800m3竣工予定。引き続き、7,200m3を設置予定) ・放射能処理した水(中低レベル放射性汚染水)貯蔵用タンク設置中 約33,000m3[～7/14]、引き続き20,000m3/月を設置予定
		課題	海洋汚染拡大防止など			・取水槽にシルトフェンス設置済み[4/14]。 ・循環型海水浄化装置本格稼働開始[6/13] ・タービントレンチ立坑閉鎖完了[6/2]。ビット閉塞作業完了[6/10]。 など
			高レベル汚染水の溢水防止			・滞留水の環境への漏洩を回避する観点から、高レベル汚染水放射能処理装置の効率的かつ安定運転が重要。
大気・土壌での放射性物質の抑制	地下水	現状	放射性汚染水の滞留、増加			各号機の原子炉、タービン、廃棄物処理建屋、トレンチ内に、高濃度の放射性物質を含む汚染水が大量に滞留（95,480m3[7/19]
			STEP2(7月～2012年1月)目標			滞留水全体量の減少
		対策	処理施設の設置			・高レベル汚染水放射能処理装置6月17日処理開始 試運転を経て、本格運転実施中。(定格:1,200m3/日)。 ・放射能処理した水を淡水化処理(6月中旬以降:480m3/日。その後、順次増量予定。)し、原子炉注水に再利用開始[6/27～]。
			建屋内滞留水の排除、処理継続、強化			・2号機および3号機の高レベル放射性汚染水を集中廃棄物処理建屋に移送実施中(2号:4/19～、3号:5/17～) ・セシウム吸着施設増強工事中。淡水化施設増強工事中。
	大気・土壌での放射性物質の抑制	現状	施設外への放射性物質の放散			・原子炉建屋水素爆発(1、3号機)等により、放射性物質及び放射性物質に汚染された瓦礫等が飛散。 ・6月末現在における、1～3号機からの放射性物質の放出量は、最大でも約10億Bq/h(Cs-134,137、事故時[3/15]の約200万分の1)と評価[7/19東電発表]。なお、この放出量が1年間続く仮定した場合の敷地境界の被ばく線量は最大1.7mSv*と評価(既放出の放射性物質の影響を除く) *敷地外での原子炉施設による線量限度は1mSv/年
			原子炉建屋健全性			大きく損傷 一部開放 大きく損傷 大きく損傷
		対策	STEP2(7月～2012年1月)目標			放射性物質の飛散抑制(ステップ1から継続)
			飛散防止剤の散布			建屋周辺への本格散布[4/26～6/28]。原子炉及びタービン建屋本体への本格散布[5/27～6/18]。
プラントパラメータ等	原子炉	現状	施設外への放射性物質の放散			・原子炉建屋水素爆発(1、3号機)等により、放射性物質及び放射性物質に汚染された瓦礫等が飛散。 ・6月末現在における、1～3号機からの放射性物質の放出量は、最大でも約10億Bq/h(Cs-134,137、事故時[3/15]の約200万分の1)と評価[7/19東電発表]。なお、この放出量が1年間続く仮定した場合の敷地境界の被ばく線量は最大1.7mSv*と評価(既放出の放射性物質の影響を除く) *敷地外での原子炉施設による線量限度は1mSv/年
			原子炉建屋健全性			大きく損傷 一部開放 大きく損傷 大きく損傷
		対策	STEP2(7月～2012年1月)目標			放射性物質の飛散抑制(ステップ1から継続)
			飛散防止剤の散布			建屋周辺への本格散布[4/26～6/28]。原子炉及びタービン建屋本体への本格散布[5/27～6/18]。
	容器格納	現状	施設外への放射性物質の放散			・原子炉建屋水素爆発(1、3号機)等により、放射性物質及び放射性物質に汚染された瓦礫等が飛散。 ・6月末現在における、1～3号機からの放射性物質の放出量は、最大でも約10億Bq/h(Cs-134,137、事故時[3/15]の約200万分の1)と評価[7/19東電発表]。なお、この放出量が1年間続く仮定した場合の敷地境界の被ばく線量は最大1.7mSv*と評価(既放出の放射性物質の影響を除く) *敷地外での原子炉施設による線量限度は1mSv/年
			原子炉建屋健全性			大きく損傷 一部開放 大きく損傷 大きく損傷
		対策	STEP2(7月～2012年1月)目標			放射性物質の飛散抑制(ステップ1から継続)
			飛散防止剤の散布			建屋周辺への本格散布[4/26～6/28]。原子炉及びタービン建屋本体への本格散布[5/27～6/18]。
津波・補強ほか	プール	現状	施設外への放射性物質の放散			・原子炉建屋水素爆発(1、3号機)等により、放射性物質及び放射性物質に汚染された瓦礫等が飛散。 ・6月末現在における、1～3号機からの放射性物質の放出量は、最大でも約10億Bq/h(Cs-134,137、事故時[3/15]の約200万分の1)と評価[7/19東電発表]。なお、この放出量が1年間続く仮定した場合の敷地境界の被ばく線量は最大1.7mSv*と評価(既放出の放射性物質の影響を除く) *敷地外での原子炉施設による線量限度は1mSv/年
			原子炉建屋健全性			大きく損傷 一部開放 大きく損傷 大きく損傷
		対策	STEP2(7月～2012年1月)目標			放射性物質の飛散抑制(ステップ1から継続)
			飛散防止剤の散布			建屋周辺への本格散布[4/26～6/28]。原子炉及びタービン建屋本体への本格散布[5/27～6/18]。
	滞留水	現状	施設外への放射性物質の放散			・原子炉建屋水素爆発(1、3号機)等により、放射性物質及び放射性物質に汚染された瓦礫等が飛散。 ・6月末現在における、1～3号機からの放射性物質の放出量は、最大でも約10億Bq/h(Cs-134,137、事故時[3/15]の約200万分の1)と評価[7/19東電発表]。なお、この放出量が1年間続く仮定した場合の敷地境界の被ばく線量は最大1.7mSv*と評価(既放出の放射性物質の影響を除く) *敷地外での原子炉施設による線量限度は1mSv/年
			原子炉建屋健全性			大きく損傷 一部開放 大きく損傷 大きく損傷
		対策	STEP2(7月～2012年1月)目標			放射性物質の飛散抑制(ステップ1から継続)
			飛散防止剤の散布			建屋周辺への本格散布[4/26～6/28]。原子炉及びタービン建屋本体への本格散布[5/27～6/18]。
環境影響	原子炉	現状	施設外への放射性物質の放散			・原子炉建屋水素爆発(1、3号機)等により、放射性物質及び放射性物質に汚染された瓦礫等が飛散。 ・6月末現在における、1～3号機からの放射性物質の放出量は、最大でも約10億Bq/h(Cs-134,137、事故時[3/15]の約200万分の1)と評価[7/19東電発表]。なお、この放出量が1年間続く仮定した場合の敷地境界の被ばく線量は最大1.7mSv*と評価(既放出の放射性物質の影響を除く) *敷地外での原子炉施設による線量限度は1mSv/年
			原子炉建屋健全性			大きく損傷 一部開放 大きく損傷 大きく損傷
		対策	STEP2(7月～2012年1月)目標			放射性物質の飛散抑制(ステップ1から継続)
			飛散防止剤の散布			建屋周辺への本格散布[4/26～6/28]。原子炉及びタービン建屋本体への本格散布[5/27～6/18]。
	容器格納	現状	施設外への放射性物質の放散			・原子炉建屋水素爆発(1、3号機)等により、放射性物質及び放射性物質に汚染された瓦礫等が飛散。 ・6月末現在における、1～3号機からの放射性物質の放出量は、最大でも約10億Bq/h(Cs-134,137、事故時[3/15]の約200万分の1)と評価[7/19東電発表]。なお、この放出量が1年間続く仮定した場合の敷地境界の被ばく線量は最大1.7mSv*と評価(既放出の放射性物質の影響を除く) *敷地外での原子炉施設による線量限度は1mSv/年
			原子炉建屋健全性			大きく損傷 一部開放 大きく損傷 大きく損傷
		対策	STEP2(7月～2012年1月)目標			放射性物質の飛散抑制(ステップ1から継続)
			飛散防止剤の散布			建屋周辺への本格散布[4/26～6/28]。原子炉及びタービン建屋本体への本格散布[5/27～6/18]。
津波・補強ほか	プール	現状	施設外への放射性物質の放散			・原子炉建屋水素爆発(1、3号機)等により、放射性物質及び放射性物質に汚染された瓦礫等が飛散。 ・6月末現在における、1～3号機からの放射性物質の放出量は、最大でも約10億Bq/h(Cs-134,137、事故時[3/15]の約200万分の1)と評価[7/19東電発表]。なお、この放出量が1年間続く仮定した場合の敷地境界の被ばく線量は最大1.7mSv*と評価(既放出の放射性物質の影響を除く) *敷地外での原子炉施設による線量限度は1mSv/年
			原子炉建屋健全性			大きく損傷 一部開放 大きく損傷 大きく損傷
		対策	STEP2(7月～2012年1月)目標			放射性物質の飛散抑制(ステップ1から継続)
			飛散防止剤の散布			建屋周辺への本格散布[4/26～6/28]。原子炉及びタービン建屋本体への本格散布[5/27～6/18]。
	滞留水	現状	施設外への放射性物質の放散			・原子炉建屋水素爆発(1、3号機)等により、放射性物質及び放射性物質に汚染された瓦礫等が飛散。 ・6月末現在における、1～3号機からの放射性物質の放出量は、最大でも約10億Bq/h(Cs-134,137、事故時[3/15]の約200万分の1)と評価[7/19東電発表]。なお、この放出量が1年間続く仮定した場合の敷地境界の被ばく線量は最大1.7mSv*と評価(既放出の放射性物質の影響を除く) *敷地外での原子炉施設による線量限度は1mSv/年
			原子炉建屋健全性			大きく損傷 一部開放 大きく損傷 大きく損傷
		対策	STEP2(7月～2012年1月)目標			放射性物質の飛散抑制(ステップ1から継続)
			飛散防止剤の散布			建屋周辺への本格散布[4/26～6/28]。原子炉及びタービン建屋本体への本格散布[5/27～6/18]。
環境影響	原子炉	現状	施設外への放射性物質の放散			・原子炉建屋水素爆発(1、3号機)等により、放射性物質及び放射性物質に汚染された瓦礫等が飛散。 ・6月末現在における、1～3号機からの放射性物質の放出量は、最大でも約10億Bq/h(Cs-134,137、事故時[3/15]の約200万分の1)と評価[7/19東電発表]。なお、この放出量が1年間続く仮定した場合の敷地境界の被ばく線量は最大1.7mSv*と評価(既放出の放射性物質の影響を除く) *敷地外での原子炉施設による線量限度は1mSv/年
			原子炉建屋健全性			大きく損傷 一部開放 大きく損傷 大きく損傷
		対策	STEP2(7月～2012年1月)目標			放射性物質の飛散抑制(ステップ1から継続)
			飛散防止剤の散布			建屋周辺への本格散布[4/26～6/28]。原子炉及びタービン建屋本体への本格散布[5/27～6/18]。
	容器格納	現状	施設外への放射性物質の放散			・原子炉建屋水素爆発(1、3号機)等により、放射性物質及び放射性物質に汚染された瓦礫等が飛散。 ・6月末現在における、1～3号機からの放射性物質の放出量は、最大でも約10億Bq/h(Cs-134,137、事故時[3/15]の約200万分の1)と評価[7/19東電発表]。なお、この放出量が1年間続く仮定した場合の敷地境界の被ばく線量は最大1.7mSv*と評価(既放出の放射性物質の影響を除く) *敷地外での原子炉施設による線量限度は1mSv/年
			原子炉建屋健全性			大きく損傷 一部開放 大きく損傷 大きく損傷
		対策	STEP2(7月～2012年1月)目標			放射性物質の飛散抑制(ステップ1から継続)
			飛散防止剤の散布			建屋周辺への本格散布[4/26～6/28]。原子炉及びタービン建屋本体への本格散布[5/27～6/18]。
津波・補強ほか	プール	現状	施設外への放射性物質の放散			・原子炉建屋水素爆発(1、3号機)等により、放射性物質及び放射性物質に汚染された瓦礫等が飛散。 ・6月末現在における、1～3号機からの放射性物質の放出量は、最大でも約10億Bq/h(Cs-134,137、事故時[3/15]の約200万分の1)と評価[7/19東電発表]。なお、この放出量が1年間続く仮定した場合の敷地境界の被ばく線量は最大1.7mSv*と評価(既放出の放射性物質の影響を除く) *敷地外での原子炉施設による線量限度は1mSv/年
			原子炉建屋健全性			大きく損傷 一部開放 大きく損傷 大きく損傷
		対策	STEP2(7月～2012年1月)目標			放射性物質の飛散抑制(ステップ1から継続)
			飛散防止剤の散布			建屋周辺への本格散布[4/26～6/28]。原子炉及びタービン建屋本体への本格散布[5/27～6/18]。
	滞留水	現状	施設外への放射性物質の放散			・原子炉建屋水素爆発(1、3号機)等により、放射性物質及び放射性物質に汚染された瓦礫等が飛散。 ・6月末現在における、1～3号機からの放射性物質の放出量は、最大でも約10億Bq/h(Cs-134,137、事故時[3/15]の約200万分の1)と評価[7/19東電発表]。なお、この放出量が1年間続く仮定した場合の敷地境界の被ばく線量は最大1.7mSv*と評価(既放出の放射性物質の影響を除く) *敷地外での原子炉施設による線量限度は1mSv/年
			原子炉建屋健全性			大きく損傷 一部開放 大きく損傷 大きく損傷
		対策	STEP2(7月～2012年1月)目標			放射性物質の飛散抑制(ステップ1から継続)
			飛散防止剤の散布			建屋周辺への本格散布[4/26～6/28]。原子炉及びタービン建屋本体への本格散布[5/27～6/18]。
環境影響	原子炉	現状	施設外への放射性物質の放散			・原子炉建屋水素爆発(1、3号機)等により、放射性物質及び放射性物質に汚染された瓦礫等が飛散。 ・6月末現在における、1～3号機からの放射性物質の放出量は、最大でも約10億Bq/h(Cs-134,137、事故時[3/15]の約200万分の1)と評価[7/19東電発表]。なお、この放出量が1年間続く仮定した場合の敷地境界の被ばく線量は最大1.7mSv*と評価(既放出の放射性物質の影響を除く) *敷地外での原子炉施設による線量限度は1mSv/年
			原子炉建屋健全性			大きく損傷 一部開放 大きく損傷 大きく損傷
		対策	STEP2(7月～2012年1月)目標			放射性物質の飛散抑制(ステップ1から継続)
			飛散防止剤の散布			建屋周辺への本格散布[4/26～6/28]。原子炉及びタービン建屋本体への本格散布[5/27～6/18]。
	容器格納	現状	施設外への放射性物質の放散			・原子炉建屋水素爆発(1、3号機)等により、放射性物質及び放射性物質に汚染された瓦礫等が飛散。 ・6月末現在における、1～3号機からの放射性物質の放出量は、最大でも約10億Bq/h(Cs-134,137、事故時[3/15]の約200万分の1)と評価[7/19東電発表]。なお、この放出量が1年間続く仮定した場合の敷地境界の被ばく線量は最大1.7mSv*と評価(既放出の放射性物質の影響を除く) *敷地外での原子炉施設による線量限度は1mSv/年
			原子炉建屋健全性			大きく損傷 一部開放 大きく損傷 大きく損傷
		対策	STEP2(7月～2012年1月)目標			放射性物質の飛散抑制(ステップ1から継続)
			飛散防止剤の散布			建屋周辺への本格散布[4/26～6/28]。原子炉及びタービン建屋本体への本格散布[5/27～6/18]。
津波・補強ほか	プール	現状	施設外への放射性物質の放散			・原子炉建屋水素爆発(1、3号機)等により、放射性物質及び放射性物質に汚染された瓦礫等が飛散。 ・6月末現在における、1～3号機からの放射性物質の放出量は、最大でも約10億Bq/h(Cs-134,137、事故時[3/15]の約200万分の1)と評価[7/19東電発表]。なお、この放出量が1年間続く仮定した場合の敷地境界の被ばく線量は最大1.7mSv*と評価(既放出の放射性物質の影響を除く) *敷地外での原子炉施設による線量限度は1mSv/年
			原子炉建屋健全性			大きく損傷 一部開放 大きく損傷 大きく損傷
		対策	STEP2(7月～2012年1月)目標			放射性物質の飛散抑制(ステップ1から継続)
			飛散防止剤の散布			建屋周辺への本格散布[4/26～6/28]。原子炉及びタービン建屋本体への本格散布[5/27～6/18]。
	滞留水	現状	施設外への放射性物質の放散			・原子炉建屋水素爆発(1、3号機)等により、放射性物質及び放射性物質に汚染された瓦礫等が飛散。 ・6月末現在における、1～3号機からの放射性物質の放出量は、最大でも約10億Bq/h(Cs-134,137、事故時